市が魅力を、価値を、エネルギーを「私に」伝える情報紙
To Me 広報とめ トゥー・ミー
3 Mar 2021 Vol.310

# ときめき人

Tokimeki bito

## 地域の話題を読みやすく届けたい

### 豊里公民館だよりが全国で奨励賞を受賞

奨励賞を受賞した「豊里公民館だより」はホームページで閲覧できます

豊里公民館のメンバー。前列左から遠藤早苗さん、伊藤隆敏館長、佐々木信義会長、石川清守さん、後列左から勝倉菜津子さん、遠藤史絵さん。

全国の公民館の広報活動向上に向け、優れた公民館報を表彰する「全国公民館報コンクール」。8回目を数える同コンクールで、豊里コミュニティ推進協議会が発行する「豊里公民館だより」が奨励賞に選ばれた。

豊里公民館だよりは、豊里地域約2100世帯を対象に、月1回発行している地元広報紙。地域のイベントやお知らせを写真やイラストなどを交えながら紹介する。昨年4月から編集を担当する遠藤早苗さんは「イベントの様子が伝わるように、人の表情が見える写真を積極的に掲載するよう意識しています。レイアウトも読む人の気持ちになって、見やすさを大切にしています」と、読者目線での編集に取り組む。毎月試行錯誤を繰り返しながらの作業は、入稿前日まで及ぶことも。記事の選定や文章の書き方は、豊里町役場で広報担当だった伊藤隆敏館長からのアドバイスを頼りに、読みやすさに重点を置き取り組んでいる。読む人の気持ちを考えて作られた作品は、担当1年目ながら全国で高く評価された。

「賞をいただけてうれしいです。地域の出来事をそこにいるように感じてもらえるような臨場感ある広報紙を目指します」と話す遠藤さんの言葉に、「新型コロナによるイベントの中止など暗い話題が多い中、公民館だよりで少しでも地域が元気になればうれしいですね」と伊藤館長が付け加える。

次の目標は金賞の受賞。地域の話題を届けるべく、これからも読みやすさに磨きをかける。

## 編集後記

▼「やさしくて、人を疑わない」「知らない人でもすぐ家に上げてくれる」。取材をしながら登米市の温かさを実感。しかし、思いやりや素直さにつけ込む行為が横行していることも事実です。うまい話には隠れた何かがあるもの。飛びつく前に一呼吸置き、冷静に。（佐々木）

▼「豊里公民館だより」と同じく、月に1回発行している「広報とめToMe」。取材の中で話してもらった思い通りにいかない歯がゆさや締め切り直前の心境などに、心の中で相づちを打っていました。広報とめも、負けずに臨場感ある広報紙を目指したいと思います。（三浦）

▼今号は100歳を迎えた皆さんの記事を担当しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、直接の取材から、文書による取材に変更。記事を作りながら感じたのは、やはり直接、顔を見て取材して生の声を記事にしたいということ。早くコロナが収束することを願っています。（小野寺）

広報とめ（3月号）
発行日／令和3年2月17日　発行／登米市
〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字中江二丁目6番地1
編集／まちづくり推進部まちづくり推進課 広報係
TEL.0220-22-2147　FAX.0220-22-9164
E-mail:koho@city.tome.miyagi.jp　印刷／川内印刷株式会社

**登米市公式ホームページ**
（新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は市公式ホームページでお知らせしています。）https://www.city.tome.miyagi.jp/

**登米市メール配信サービス**
（防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。）
https://mail.cous.jp/tomecity/